千葉科学大学紀要　11．143－149．2018
【報告】

看護学部学生を対象に学習計画立案フォーマットを使用した学習支援の効果

The effectiveness of a learning support strategy for nursing department students to create study plans

下野　純平・冨樫　千秋・青木　君恵・菅谷　しづ子

Junpei SHIMONO, Chiaki TOGASHI, Kimie AOKI and Shizuko SUGAYA

目的：定期試験において一定基準に到達することができなかった看護学部3年生の学生を対象に行った、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援の効果を明らかにし、今後の看護学部学生へのよりよい学習支援を検討することを目的とした。
方法：本学看護学部3年生に在籍し、学習計画立案フォーマットを用いて学習支援を受けた学生4名に半構成的面接を実施し、逐語録を質的帰納的に分析した。
結果：【面倒くささと気にかけてもらえている嬉しさ】【学習計画立案フォーマットを用いた学習支援に助けられたという実感】【目標に向かって計画的に学習に取り組めたという実感】【学習日記を書きたくないという思い】【学生なりの学習計画立案フォーマットの活用方法の発見】【学習継続に向けた学生それぞれの学習計画立案フォーマットの改善点の発見】【学習計画立案フォーマット使用対象者拡大の可能性】の7つのカテゴリーが抽出された。
考察：対象者は継続して学習に取り組めていたことから、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援は効果があったと考えられた。その一方で、対象を拡大する場合には、対象学生の学力や学習への主体性などを加味し、再度フォーマットを検討する必要がある。

1．はじめに

大学教育現場における学生の学修に関する問題として、主体性の欠如、基礎学力の不足、学習意欲の不足があげられている[1)]。特に、基礎学力の低下に関しては、1999年に「分数ができない大学生」[2)]が出版されたことで大学教員のみならず、社会全体の問題となった。このような背景のなか、近年、大学初年次生に対する学修支援プロジェクトの取り組み[3)]や看護学生が基礎看護技術修得のために必要と認識した自己学習を遂行するための能力を明らかにする調査結果[4)]、ネット上での学習支援に関する研究[5) 6)]など、看護学部学生を対象にした学習支援に関する研究も報告されている。

本学看護学部においても、WEBを用いた学習支援や国家試験模試結果を基にしたグループ指導等を行っている。

しかし本学看護学部には、このような取り組みを行っても、定期試験等で一定基準に到達できない学生がいる。低得点となる要因のひとつとして、学生自身が主体的に学習計画を立案する習慣がないことや継続して学習に取り組むことができないことなどが考えられる。

これらのことから、学生一人ひとりが学習計画を立案し、継続して学習に取り組むためのフォーマットを開発・活用することで、学生の主体的な学習への取り組みを支援することができると考えた。さらに、学生一人ひとりの学力向上への支援にもつなげることができると考えた。今回、定期試験において一定基準に到達することができなかった看護学部3年生の学生を対象に、主体的に学習計画を立案し、継続して学習に取り組むことを目指し作成した学習計画立案フォーマットを使用し、半年

連絡先：下野純平　jshimono@cis.ac.jp
千葉科学大学看護学部看護学科
Department of Nursing, Faculty of Nursing, Chiba Institute of Science
（2017年9月8日受付，2017年12月18日受理）

間、継続・定期的に学習支援を行った。

この学習支援を受けた学生にインタビュー調査を行い、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援の効果を明らかにすることで、今後の看護学部学生へのよりよい学習支援のあり方を検討することができると考えた。

２．研究目的

本研究は、定期試験において一定基準に到達することができなかった看護学部3年生の学生を対象に行った、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援の効果を明らかにし、今後の看護学部学生へのよりよい学習支援を検討することを目的とした。

３．研究方法

３．１　研究デザイン

本研究は、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援の効果を看護学部学生の語りを通して帰納的に探索する、質的帰納的、探索的デザインを用いた。

３．２　データ収集期間

データ収集期間は2016年12月～2017年2月であった。

３．３　研究対象者

研究対象者は、本学看護学部3年生に在籍し、定期試験で一定基準に到達できず、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援を受けた学生とした。

３．４　学習計画立案フォーマットを用いた学習支援の概要

研究対象者に行った学習支援の概要および経過を以下に記す。

1）筆者らが、定期試験において一定基準に到達できなかった看護学部学生を対象に、主体的に学習計画を立案し、継続して学習に取り組むことを目指し、①1ヵ月の学習目標と実践する内容および目標達成に向けた具体的な学習計画を記載する学習計画表と、②実際に取り組んだ学習行動と反省点等を記載する学習日記で構成する学習計画立案フォーマットを作成した（図1）。

2）筆者らがチューターとして担当しており、定期試験において一定基準に到達できなかった看護学部学生を対象に、面談にて学習計画立案フォーマットの活用方法と注意点について文書を用いてアドバイスし、同時に今後の学習の取り組み方の確認やチューターによる学習支援方法の相談を行った（初回学習支援）。

3）その後は1ヵ月に1～2回の頻度で、研究対象者とチューターが学習支援のために面談を行った。面談の具体的内容は各チューターに委ね、研究対象者の学習意欲や取り組み状況、性格等を考慮し、学習支援を行った。

３．５　データ収集方法

３．５．１　データ収集手順

初回学習支援から5～6ヵ月後に、チューターが学習支援を行う面談の際に、本研究代表者が同席し、直接対面にて研究の趣旨等について口頭と文書を用いて説明を行い、研究協力への同意を得た。研究協力への同意が得られた後、面接ガイドを用いて半構成的面接を行った。面接回数は1人1回で、時間は12分～20分（平均15.3分）であった。研究対象候補者6名に研究協力依頼をし、4名から研究協力を得た。

３．５．２　データ収集内容

質問項目は、①学習計画立案フォーマットの使用について説明されたときにどのようなことを感じたか、②学習計画立案フォーマットを用いたことで、今までの学習への取り組みと比較してどのような変化がみられたか、③学習計画立案フォーマットの良かった点はなにか、④学習計画立案フォーマットの悪かった点はなにか、⑤学習計画立案フォーマットを用いた学習支援について改善してほしい点はなにかの5項目であった。面接内容は承諾を得て録音した。

３．６　分析方法

分析は以下の過程を経た。

３．６．１　個別分析

録音した面接内容から逐語録を作成してデータとした。その後、学習計画立案フォーマットを用いた学習支援に関する語りを意味内容がわかる文章単位で抽出しコードとし、類似点と相違点を検討し、抽象度をあげてサブカテゴリーを生成した。事例ごとに、サブカテゴリー、コードを用いて、要旨を記述した。

３．６．２　全体分析

事例ごとに生成したサブカテゴリーの類似性や相違性を検討し、全体のサブカテゴリーを生成した。その後、サブカテゴリーの類似性や相違性を検討し、抽象度を上げてカテゴリーを生成した。

研究の真実性の確保のため、分析の過程では3名の看護学研究者と分析の過程を共有し、分析で見出されたカテゴリー等については合意が得られるまで検討を行った。

３．７　倫理的配慮

本研究は研究代表者の所属する大学の倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号：28-23）。研究対象者に

対してはデータ収集に際し、筆者が対面にて研究の目的、方法、研究協力は自由意思によること、不参加による不利益は生じないこと、プライバシー保護の保証、結果の公表方法などについて文書と口頭で説明し、書面にて同意を得た。特に、学習体験を振り返ることは研究対象者にとってつらい語りである可能性があること、倫理的に繊細な問題を含んでいる可能性があることに常に留意し、面接の進行や発言には十分に注意した。また、面接がチューターと研究対象者の関係性に影響を与える可能性を考慮し、面接は学習支援を行っていない筆者が実施した。

4．結果

分析の結果、7つのカテゴリー、25のサブカテゴリーが抽出された（表1）。以下、【　】、＜　＞の順にカテゴリー、サブカテゴリー、「　」は研究対象者の語り、（　）は前後の文脈をふまえた筆者による補足を示す。

4．1　【面倒くささと気にかけてもらえている嬉しさ】

研究対象者は、「正直、最初は面倒くさいなあと思って。こんなに書けるかなって思いました」など＜学習計画立案フォーマットを説明された当初はうまくいかないと思った＞と述べていた。しかし、「（学習計画立案フォーマットを）作ってくれたことによって勉強頑張ろうかなみたいな気になった」や「（単位を）落としてしまって、落ちちゃったって気持ちが下がってるのが、割と時間は多分かかったと思うんですけど、少しでも学習の方に戻らなきゃっていうのを支えてもらえた」など＜学習計画立案フォーマットを作ってもらった嬉しさを感じた＞とも述べていた。

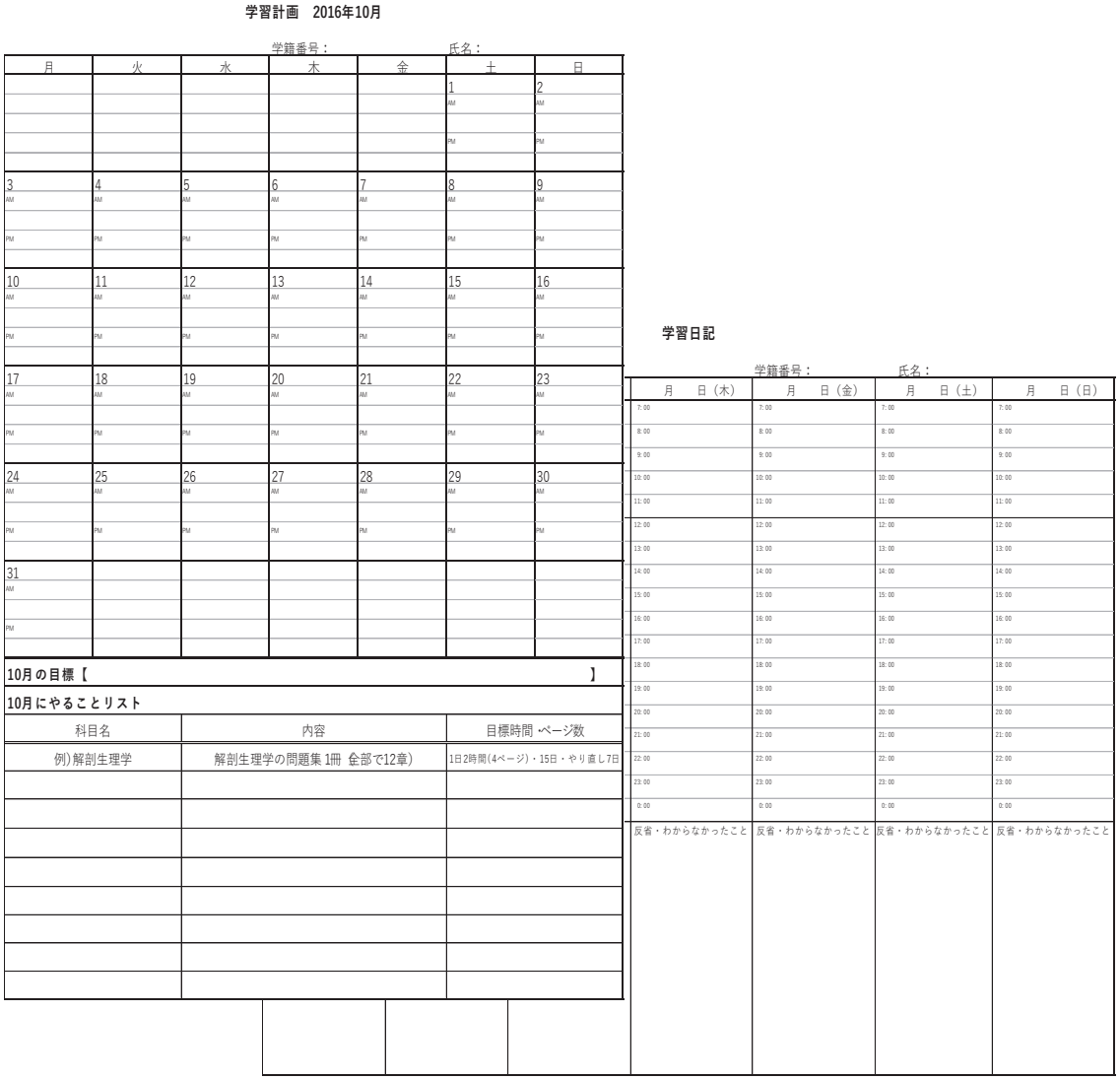

図1　作成した学習計画立案フォーマット

４．２　【学習計画立案フォーマットを用いた学習支援に助けられたという実感】

研究対象者は、「面談とか、こういうフォーマットがあったことによって、助けられたなというふうには自分的には思います」など＜チューターが学習環境を整えてくれたことへの感謝＞の気持ちを抱いていた。また、「（チューターからは）計画表を見て、どういう勉強法してるかとか、そういう勉強法に対してのアドバイスとかもしていただきました。分かりやすかったし、親身になって対応してくれて、こちらはありがたいなと思います」や「面談は、先生とかも自分のことを考えてくれて、自分一人じゃできないっていうか、目標には達成できないけど、先生とかが一緒に付いてやってくれると心強い」など＜チューターが親身になって具体的な学習計画のアドバイスをくれたのでありがたかった＞という思いを抱いていた。さらに、「一緒になって国家試験合格しようとか言ってくれると、（中略）、頑張れるっていうか、諦められないんだなって感じる」や「先生が頑張ってくれてるのに、自分が無理ってなっちゃうと、先生がやってくれてることも普通に無駄だし。そう考えると、自分も先生の頑張ってくれてることに応えなきゃなって思う」と＜自分のために頑張ってくれているチューターに応えたいと思うと頑張れる＞という思いも抱いていた。

４．３　【目標に向かって計画的に学習に取り組めたという実感】

研究対象者は、学習計画立案フォーマットを説明された当初は面倒くささを感じていたが、実際に学習計画表を使用してみると＜学習計画表を作成する負担を感じなかった＞と述べ、＜学習計画表は目標や予定が1枚に書けたのでよかった＞や＜学習計画表はその月の目標に向かった計画を具体的に立てることができてよかった＞といった学習計画表の利点を挙げていた。また、「どういうふうに勉強していったらいいのかな、みたいな自分で考える時間にはなった」や「計画表を使うことによって何時に起きて、何時に勉強して、お昼ご飯食べて、勉強して、就寝っていう生活のリズムが整えることができた」といった＜学習計画表を作成するようになって生活のリズムを整え計画的に学習できるようになった＞と述べていた。さらに、＜学習の予定を立てたことで実行に移さないといけないと思った＞、＜1日のノルマが明確になったことで勉強時間が延びた＞といった効果も実感していた。今回、筆者らが作成した学習計画表は学習日記と比較して、1日の計画は午前と午後で2行ずつしか書けないものであったが、これに対しては＜事前に1日の計画を細かく立てすぎないことで、当時の学習状況や自分の集中力に応じて修正できた＞と述べる研究対象者もいた。

４．４　【学習日記を書きたくないという思い】

研究対象者は、＜学習日記は細かくて毎日書くのは面倒くさかった＞と述べ、特に＜勉強した後に日記を書くのは面倒くさい＞という意見があった。また、「振り返り（学習日記）は、結構学習できた日とかは使って、あ、こんなにできたんだって書いてみたりはしてたんですけど、できなかった日はやっぱり書きたくないなと思って」や「やっぱりやってないとき書くのって、気持ち的に、あ、やってなかったって、もう一回自分に言うような形になっちゃって、書きたくないなって」と＜学習日記を書くことで学習していない自分自身に向き合うのが嫌だった＞という思いも抱いていた。

４．５　【学生なりの学習計画立案フォーマットの活用方法の発見】

研究対象者は、学習日を毎日は作成していなかったが、「（記入した学習日記を）先生に見せなきゃいけないからやらなきゃいけない」ことから、「（学習日記を書くために）やらなくちゃ」と＜学習日記は自分の気持ちに負荷をかけるために使っていた＞と述べていた。また、＜学習日記は勉強の合間の気分転換として使っていた＞や＜不定期に学習日記を記入することで修正すべき生活のずれを明確にする＞といった、学習日記の自分なりの活用方法を見つけていた。このほかにも、「（学習計画表と併用して）自分でメモ帳とか使って何時に起きるみたいなのを書き写して」など＜今までの自分の経験をいかした学習計画の立て方をみつける＞ことができていた。

４．６　【学習継続に向けた学生それぞれの学習計画立案フォーマットの改善点の発見】

研究対象者は、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援を一定期間受けると「1ヵ月だと大ざっぱになっちゃって。だから、もうちょっと細かい目標みたいな。月もあった上で、もうちょっと細かい目標を立てれれば」といった＜学習計画表は月単位の目標があったうえで週単位の目標も立てられればいい＞や＜学習計画表や学習日記にチューターがコメントを記入するスペース確保の希望＞、＜学習計画表に時間を書き込める形式への変更希望＞など、学習継続に向けて、自分自身にあった学習計画立案フォーマットのより良い形式を考えていた。毎日作成することに対して負担感を抱き、＜学習日記は反省だけ記入するようにした方が毎日書く＞という意見も挙がった。

４．７　【学習計画立案フォーマット使用対象者拡大の可能性】

研究対象者は、約半年間、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援を受けた実感から、＜1年生から学

表1　看護学部学生を対象に学習計画立案フォーマットを使用した学習支援の効果のカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的な語り
面倒くささと気にかけてもらえている嬉しさ	学習計画立案フォーマットを説明された当初はうまくいかないと思った	正直、自分的にはこういうの（学習計画立案フォーマット）を作っても、うまくいかないっていうのがあって、予定とかも立てても、絶対そのとおりにはならないって思った。
		正直、最初は面倒くさいなあと思って。こんなに書けるかなあって思いました。
	学習計画立案フォーマットを作ってもらった嬉しさを感じた	（学習計画立案フォーマットを）作ってくれたことによって勉強頑張ろうかなみたいな気にはなった。
		あ、作ってくれたんだ、うれしいみたいな感じでした。私的には。
学習計画立案フォーマットを用いた学習支援に助けられたという実感	チューターが学習環境を整えてくれたことへの感謝	結構、精神的にも勉強しなきゃっていうこと的にも、結構助けになったなというふうに、私自身は感じてます。（中略）、そういう面談とか、こういうフォーマットがあったことによって、助けられたなというふうには自分的には思います。
	チューターが親身になって具体的な学習計画のアドバイスをくれたのでありがたかった	（チューターからは）計画表を見て、どういう勉強法してるかとか、そういう勉強法に対してのアドバイスとかもしていただきました。分かりやすかったし、親身になって対応してくれて、こちらはありがたいなと思います。
	自分のために頑張ってくれているチューターに応えたいと思うと頑張れる	勉強とか嫌だなって思うし、自分はそんなに勉強も得意じゃないからっていうのもあるんだけど、先生が頑張ってくれてるのに、自分が無理ってなっちゃうと、先生がやってくれてることも普通に無駄だし。そう考えると、自分も先生の頑張ってくれてることに応えなきゃなって思う・・・。
目標に向かって計画的に学習に取り組めたという実感	学習計画表を作成する負担は感じなかった	（学習計画を立てることについて）手間とは思わなかったです。必要なことかなと思ってやっていたので、はい。
	学習計画表は目標や予定が1枚に書けたのでよかった	（学習計画表の）良かったとこは、午前と午後にちゃんと時間が別れてて、目標とやるリストっていうのも一緒の、同じ紙に入っているっていうのが良かったなと思います。
	学習計画表はその月の目標に向かった計画を具体的に立てることができてよかった	目標は計画と手順だけじゃ。目標がないと、そこに向かえなくてできないっていうか、頑張れないから、目標を立てて、その目標に向かって、一日一日どう積み重ねるかっていう感じかな。
	学習計画表を作成するようになって生活のリズムを整え計画的に学習できるようになった	ここで書いたことを、書くのにいろいろスケジュールとか見たんですけど、そういうのも、どういうふうに勉強していったらいいのかな、みたいなのを自分で考える時間にはなった。
		計画表を使うことによって何時に起きて、何時に勉強して、お昼ご飯食べて、勉強して、就寝っていう生活のリズムが整えることができたことが良かったと思います。
	学習の予定を立てたことで実行に移さないといけないと思った	大ざっぱだけど予定立てれて、その予定を立てたってことは、それを実行に移さなきゃいけないから、そういった部分では大切なのかなって。
	1日のノルマが明確になったことで勉強時間が延びた	その日のノルマが分かるから、勉強時間は延びたかな。
	事前に1日の計画を細かく立てすぎないことで、当日の学習状況や自分の集中力に応じて修正できた	自分も大ざっぱなほうなので、こんな（学習計画表の形式の）感じで、午前中何してみたいな。時間、1時間。自分の中では、そんな集中力っていうのがもたないので、午前中の中でも、1時間やって休憩みたいな感じでやるんで、こういう感じでも、自分のリズムに応じてやるだけ。
学習日記を書きたくないという思い	学習日記は細かくて毎日書くのは面倒くさかった	1日のほう（学習日記）は実際に、これ全部毎日はちょっと面倒くさいな、できないなと思った。
	勉強した後に日記を書くのは面倒くさい	多分、こっち日記じゃないですか。やった後書くのが面倒くさい。
	学習日記を書くことで学習していない自分自身に向き合うのが嫌だった	やっぱりやってないとき書くのって、気持ち的に、あ、やってなかったって、もう一回自分に言うような形になっちゃって、書きたくないなっていう気持ち的な面で書けなかったことが多かったので。
学生なりの学習計画立案フォーマットの活用方法の発見	学習日記は自分の気持ちに負荷をかけるために使っていた	（学習日記を書くために）やらなくちゃっていう、自分に負荷をかけるために使ってたって感じです。
		（記入した学習日記を）先生に見せなきゃいけないからやらなきゃいけないな、っていう意思にはつながったかなって思います。
	学習日記は勉強の合間の気分転換として使っていた	勉強してて、飽きてきたりしたときに、こういうふうに何か違ったことをすると、気分転換的なのがあったりして。
	不定期に学習日記を記入することで修正すべき生活のずれを明確する	最初、10月何日ってやって、そっから2週間空けて書いたら、生活、やってることが自分はどんどんずれてってたんで、だから、どこどこずれてるなと思って、修正できるように起きる時間を早めたりとか、そういうふうに使ってました。
	今までの経験をいかした学習計画の立て方をみつける	（学習計画表と併用して）自分でメモ帳とか使って何時に起きるみたいなのを書き写してました。
		もともと計画立てても、自分でできないっていうのがあった。（中略）今回はちゃんとやらなきゃ、自分である意味日程を決めなきゃっていうのがあったんで、できそうなもの、できづらいものっていうのを考えながら立てたので、そこが違ったのかなとは思うんですけど。
学習継続に向けた学生それぞれの学習計画立案フォーマットの改善点の発見	学習計画表は月単位の目標があったうえで週単位の目標も立てられればいい	1ヵ月だと大ざっぱになっちゃって。だから、もうちょっと細かい目標みたいな。月もあった上で、もうちょっと細かい目標を立てれればなみたいな。
	学習計画表や学習日記にチューターがコメントを記入するスペース確保の希望	（チューターの）言葉があった方がどこがだめだったのかなとか分かりやすいと思うので自分、はい。そう（学習計画表と学習日記）にチューターがコメントを書く欄があったほうが良いと）思います。
	学習計画表に時間を書き込める形式への変更希望	（学習計画表の）午前午後だけのくくりだと多分自分がやらなくなっちゃうから、時間1コマ1コマで分けて2時間やったら取りあえず1時間はちょっと休憩するとか、そういうふうに計画を立てたほうがスムーズには進むかな、みたいな。
	学習日記は反省だけを記入するようにした方が毎日書く	毎日書くっていうんだったら、逆に反省と、できたこと、できなかったことみたいな、反省のところだけにしちゃったほうが毎日書くのかなとは思いました。
学習計画立案フォーマット使用対象者拡大の可能性	1年生から学習計画立案フォーマットを使用した方がよい	自分が言える立場じゃないんですけど、（中略）、1、2年の頃を見ると、結構一般科目も多かったから、遊んでばっかりっていう。2、3年生で多分みんな危機感は出ると思うんですけど、でも1年生のときにこれ（学習計画立案フォーマット）をやったらいいのかな、みたいなのを。
	学習計画を立てるのが苦手な学生には学習計画立案フォーマットがあると助かる	自分の学習スタンスを持ってて、できる人はいいけど、学習スタンスがないし、何していいか分かんない人に関しては、こういうの（学習計画立案フォーマット）があったほうが、いいかとかも見えてくるし、先生が付いてることで、心強いんじゃないかなって思います。

習計画立案フォーマットを使用した方がよい＞や＜学習計画を立てるのが苦手な学生には学習計画立案フォーマットがあると助かる＞と、下級生や単位を修得した同級生に対しても学習計画立案フォーマットを使用した学習支援の必要性を述べていた。

５．考察

近年、看護学部学生を対象にした学習支援の研究は、教材に関するもの[5)6)]や実習の評価方法に関するもの[7)8)]が目立っている。本研究では、WEBを用いた学習支援やグループ指導等を行っても定期試験において一定基準に到達することができなかった看護学部学生を対象にし、学習の継続を支援することに焦点を当て、学習計画立案フォーマットを用いて個別支援を行ったことが独自性といえる。したがって本稿では、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援の効果、学習計画立案フォーマットの修正点と今後の課題について考察する。

５．１　学習計画立案フォーマットを使用した学習支援の効果

本研究結果から、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援によって、学生は生活のリズムを整え、1ヵ月ごとの目標に向かって計画的に学習に取り組むことができていた。三田ら[3)]は、看護学科およびリハビリテーション学科の学生を対象に週1回の少人数のゼミ形式での学習支援に加え、学生の状況や希望に応じて個別指導を行った結果、支援を受けた学生は自分の勉強に役に立ったや、もっと勉強する必要があるといった思いを抱いていたと報告している。このことから、個別指導を行うことで学生の学習に対する意欲が向上することは一般的な効果であるとともに、定期試験において一定基準に到達することができなった学生に学習計画立案フォーマットを使用した学習支援においても期待できる効果であることが明らかとなった。また、1ヵ月に1～2度、チューターが個別面談にて学習方法についての確認やアドバイスをすることで、学習方法の技術的なアドバイスのみならず、精神的な支援にもつながっていたことも明らかとなった。住谷ら[9)]は、看護専門学校生の学習継続を支えた要因のひとつとして看護教員を含む支援してくれる人の存在があったことを報告している。単位を修得することができなかった学生は、同級生からの疎外感や大学での孤立感を強く抱くと考えられる。本研究においても、所定の単位を修得できず、気持ちが落ち込んでいる時期が長かったと発言する学生もいた。このような学生に対して、単に単位を修得できなかったことに対する精神的支援のみを目的とした個別面接をするのではなく、学習支援を通して精神的支援を行うことは、学生にとって自分自身の学習面における課題の明確化や課題克服に取り組めるとともに、その過程での挫折感や達成感を他者と共有できることで、苦手な学習に向き合い、継続することができると考えられた。

また学習計画立案フォーマットを用いることは、学習支援をするチューターにとっても、学生が取り組んだことが形として現れてくるため、アドバイスがしやすく、より学生個々の特徴に合わせた関わりができると考えられた。さらに、私立大学教員の授業改善白書[1)]によると教室外での学習指導に時間が取れないことが教員自身の問題として報告されているが、学習計画立案フォーマットを使用することは学生の取り組み状況を素早く把握する手段の一つにもなることから、教員の学習支援に関する負担軽減にもつながると考えられた。

このようなことから、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援は、学習計画の確認やアドバイスに加え、学生の学習に対する意欲向上、学習の継続のための精神的支援を行えることができ、さらに学生個々の学習面における特徴の把握や学習支援にかける時間の短縮において効果を得ることができたと考えられた。

しかし一方で、学習日記に関しては記入する学生が負担感を抱いていることが明らかとなった。本研究結果から、学習日記は自分の気持ちに負荷をかけるためや生活のリズムを修正するためなどに使用していたことが明らかとなり、必ずしも毎日、学習日記を記入しなくても学習継続への動機づけとして効果が現れていると考えられた。

５．２　学習計画立案フォーマットの修正点と学習支援の今後の課題

研究対象者は、1ヵ月ごとの目標に向かって計画を立てることや1ヵ月の計画が1枚にまとまっていたことがよかったと述べており、なかには週単位の目標を立てやれるような形式を望む対象者もいた。このことから、学習計画立案の支援において、一目で計画を確認でき、短期間で達成可能な目標を立てることが重要であると考えられた。単位を修得することができなかった学生は、今後の見通しを見出しにくく、目標を見失ってしまう可能性が考えられる。これに対し、本研究で作成した学習計画表は目標を1ヵ月ごと立てるようにしており、また1ヵ月毎にチューターとの面談もしていたため、目標を見失うことなく、学習計画を立案し、学習継続することができていたと考えられる。これに関連して、研究対象者は学習意欲向上のために、学習計画表や学習日記にチューターがコメントを記入するスペースがほしいと述べており、目標達成促進のために、今後修正していく必要があると考えられた。また研究対象者は、元々学習計画を立てるのが不得意であり、学習計画表に比べて1日に学生が記入する比重が大きい学習日記は、筆者らが意図す

るような使用は認められなかった。しかし、研究対象者は、自分なりの学習日記の使用方法を見つけ、学習継続への動機づけを行えていた。このことから、学習日記に関しては、使用目的を見直し、より簡便な形式に修正していくことが必要であると考えられた。さらに、研究対象者は学習計画立案フォーマットを使用した学習支援を一定期間受けると学習継続に向けて、自分自身にあった学習計画立案フォーマットのより良い形式を考えていた。このことから、学習支援開始時には学習計画立案フォーマットの活用方法を提示していくが、その後は、その学生の学習方法や性格に合わせて、学生と話し合いながら活用方法を検討、修正していくことが必要であると考えらえた。学習支援の中で、その学生にあった活用方法を検討していくためにチューターは、学習計画立案フォーマットのいくつかの活用方法例を提示できることが求められ、本研究において得ることができた4名のインタビューデータは、今後の学習計画立案フォーマットを使用した学習支援に役立てることができると考えられた。

学習計画立案フォーマットを使用したことで学習意欲の向上や学習の継続といった面での効果は得られたが、実際の定期試験等でよい成績をおさめられるかといった面の効果は本研究では明らかにできなかった。先行研究[3]においても、学習支援の効果を定量的に示す必要性が研究の課題として述べられている。そのため、学習計画立案フォーマットを使用した学習支援について研究を継続し、より詳細に検証していく必要がある。また本研究は、学習計画立案フォーマットを使用した一部の看護学部学生を対象とした。そのため、研究対象となった学生には学習支援の効果が得られた一方で、研究への協力が得られなかった学生には学習効果が得られなかった可能性も考えられる。野中[10]は、大学生の学習タイプ別に学習支援内容を検討する必要性を指摘し、大学生を対象にした質問紙調査の結果、学習の質と学習の量の観点から大学生の学習タイプを5つに類型化している。本研究結果から、学習計画立案フォーマットを使用する対象学生の拡大も示唆された。しかし対象の拡大を検討する場合、先行研究[10]で述べられているような学習タイプを明らかにすること、さらには学習タイプをアセスメントする指標を作成し、学習計画立案フォーマットを使用が有効かどうかを分析する必要がある。そのうえで、新たな対象に学習計画立案フォーマットを使用する必要性が考えられた場合には、学習タイプに合わせた学習計画立案フォーマットを作成する必要がある。同時に、フォーマットを使用した学習支援を行う学生が増加することによる教員の負担感についても目を向けていく必要があると考えられた。

謝辞

本研究にご協力いただきました研究対象者の方々に感謝いたします。

引用文献

1) 公益社団法人私立大学情報教育協会：私立大学教員の授業改善白書平成25年度調査結果. 2014. http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2013/hakusho2013.pdf,（参照2017-02-07）.
2) 岡部恒治, 戸瀬信之, 西村和雄編：新版 分数ができない大学生. 筑摩書房, 東京, 2010.
3) 三田満男, 鈴木研太, 木村美紀, 他：大学初年次生に対する学習支援プロジェクトの取り組みについて. 日本医療科学大学研究紀要, 8, 39-46, 2015.
4) 大津真季子：看護学士課程の学生がとらえた基礎看護技術習得に向けた自己学習能力. 日本医療科学大学研究紀要, 8, 21-37, 2015.
5) 西上あゆみ, 緒方巧, 湯浅美香：eラーニングを活用した基礎看護技術の学習支援の評価. 梅花女子大学看護学部紀要, 5, 31-39, 2015.
6) 林さとみ, 中村充浩, 平田美和, 他：看護学生に視聴覚教材をオンデマンドに閲覧させる学習支援環境の評価　第2報. 東京有明医療大学雑誌, 3, 9-17, 2011.
7) 伊藤あゆみ, 糸島陽子, 中川美和, 他：ルーブリックを活用したエンドオブライフケア実習評価と課題 -学生評価と教員評価からの検討-. 人間看護学研究, 14, 41-45, 2016.
8) 下川原久子：看護学実習における形式的評価の一考察 -統合実習の学生による中間評価から-. 八戸学院短期大学研究紀要, 44, 21-28. 2017.
9) 住谷圭子, 甘佐京子, 松本行弘, 他：看護専門学校生の学業継続に影響する要因. 人間看護学研究, 13, 43-49, 2015.
10) 野中陽一朗：大学生の学習タイプの類型化とタイプ別学習支援内容の評価 - ラーニングコモンズにおける学習支援内容に着目して-. 日本教育工学会論文誌, 40, 61-64, 2016.